社会福祉法人　阿闍羅会

令和２年度　事業報告書

（令和３年５月１９日）

〈　目　次　〉

１　法人・施設経営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
（１）理事会・評議員会
（２）役員及び評議員の退任と選任
（３）新規事業（短期入所事業）
（４）職員行動目標に関する報告
（５）自己評価
（６）総合的な福利厚生
２　生活介護　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
（１）事業目的
（２）事業概要
（３）支援内容
（４）年間収入
３　就労継続支援Ｂ型　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
（１）生活支援
（２）作業支援
ア　ワークキャンパス大鰐
イ　ワークショップ大鰐
ウ　しいたけ事業（共通）
（３）工賃向上計画に関する報告
４　拠点における各事業共通の支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
（１）保健支援
（２）余暇活動支援
５　給食　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９
（１）業務内容
（２）特別メニュー
（３）給食だよりの発行
（４）嗜好調査
（５）まとめ・反省
６　防災　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１
（１）ワークキャンパス大鰐
（２）ワークショップ大鰐
（３）グループホームさくら
（４）グループホームこすもす
（５）避難確保計画に関する報告
７　広報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３
（１）広報紙「阿闍羅」
（２）ホームページ
（３）福祉サービス広報
（４）その他の広報活動

８　会議　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
（１）連絡調整会議
（２）事業会議
（３）給食会議
（４）ケース会議
（５）グループホーム関係者会議
９　人材育成（研修）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
（１）評価・面談
（２）求められる能力
（３）新規採用者研修
（４）研修参加（実施）等状況
１０　苦情解決　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
（１）ワークキャンパス大鰐
（２）ワークショップ大鰐
（３）利用者満足度調査
１１　地域生活支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
（１）グループホームさくら（介護サービス包括型）
（２）グループホームこすもす（外部サービス利用型）
１２　共同受注窓口　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
（１）ふらわーずぶるーむ
（２）中南障害者工賃アップ協議会
１３　虐待防止委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
（１）実施日時
（２）参加者
（３）審議内容
（４）年間活動
１４　安全巡視　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
（１）実施日および実施担当者
（２）実施内容
（３）令和３年度への課題
１５　地域交流　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７
（１）地域との交流
（２）学生やボランティア等の受け入れ
（３）情報の収集と公開
（４）福祉避難所
（５）障害に関する相談窓口

１　法人

（１）理事会・評議員会等　（笹田和夫）

年月日（曜日）	事業	場所	参加者
令和　２年　５月１３日(水)	監査会	ワークキャンパス大鰐 ワークショップ大鰐	監事　２名
５月２２日(金)	第１回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　５名 監事　１名
６月１０日(水)	第１回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員５名 監事　２名
１１月１８日(水)	第２回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　６名 監事　２名
１２月　８日(火)	第２回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員７名 監事　２名
令和　３年　３月１０日(水)	第３回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　５名 監事　１名
３月２３日(火)	第３回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員４名 監事　２名

（２）役員及び評議員の退任と選任　（笹田和夫）

令和２年度はなし

（３）新規事業（短期入所事業）　（佐藤直幸）

ア　設置理由

利用者・保護者の高齢化により、家庭での支援が困難となる場面が増えてきており、自身の体調面の悪化や長期の治療・療養が必要な場合には、利用者の食事など基本的な生活を維持すること自体が困難になる。将来的にはグループホームの利用を検討しているが、目の前の問題解決のため緊急的なレスパイト利用を希望するケースが増えている現状もある。

また、地域相談支援事業所からレスパイト利用の受け入れが可能かどうかの相談依頼も増えている。どこのグループホームでも、安定した経営のためには、基本的に満床にできるよう努めており、また、利用率も高く、突発的な依頼には対応が難しい場合がある。このような状況から、保護者からの希望で将来を見据えての体験利用等も徐々に増加しているが、短期入所事業が整備されていないため受け入れが難しい状態にあり、整備が必要と考えられるため、設置を行った。

イ　申請概要

実施事業所　グループホームさくら
事業種別　短期入所事業（福祉型、空床型）
申請経緯　令和２年１０月１５日　青森県へ申請書提出
１２月　１日　認可（事業開始）

ウ　利用状況と今後

現在はコロナ感染症防止のため利用制限をしており、緊急性の高い利用者に限り、利用受け入れをしている。新型コロナウイルスの感染状況を注意深く観察し必要に応じて体験利用の受け入れも実施していきたい。

（４）職員行動目標に関する報告　（白石安英）

ア　「利用者の支援」

（ア）　フェイスシート（利用者基本台帳）は、ケース毎に過年度分の未記入箇所の追記や不足分の追加などにより整備が進み、春・秋の三者面談時に十分活用できた。記入にあたっては、特にケース担当が変わった場合であっても、正確性を期し変更等のある場合にはその都度速やかに訂正・修正を行えるようにしている。

（イ）　アセスメントシートは、所見及び本人・家族の希望要望を軸として、作業内容の変化に合わせて内容（項目）の見直しを行った。この際、生活領域と就労領域について、できるかできないかの単なる評価だけでなく、目標としても活用できるようにした。記入については、個別支援計画の基礎として活用できるように努め、職員間はもとより保護者との情報共有を進めた上で日々の支援の質の向上につなげられた。

（ウ）　ケースファイルの管理は、各ケース担当が未整備部分を解消できるように努めるとともに、チェックリスト等の活用により支援主任・支援課長の二重チェックが機能できるようになってきた。

イ　「仕事面の支援」

（ア）　しいたけ栽培に関する法人一本化は、実質的実施から２年目となりワークショップ大鰐の利用者・職員の作業内容習得と作業工程習熟が徐々に進みスキルアップが図られている。各施設間で、利用者の年齢、体力、スキルの差などにより、まだ完全な一体化（ハウスごとに分かれず一緒に作業する体制）はできておらず、もう少し時間が必要である。２年後の完全一体化を目指して取り組んでいる。

また、利用者のリーダー的役割を担える人材育成は、利用者個々の基礎的なスキル向上と両施設が一体化した時の適材適所による配置等によりリーダーとしての力を発揮できるよう取り組んでいるところであるが、今後に向けてさらに積極的に進めたい。

（イ）　工賃支給規程を改定し利用者給与表を新たに作成して取り組んで２年目となったが、両施設とも目標工賃をほぼ達成することができ、達成感や働きがいにつなげることができた。これまでの取り組みを継続していくことにより、しいたけの増産と安定生産及び工賃の増額と安定支給を図り、更なる高みを目指したい。

また、キャリアアップ項目（作業種目毎の評価項目）については、個別支援計画作成時の根拠として活用し、三者面談時に本人・保護者への説明の際には評価

と同時に今後の目標として確認でき有効であった。

ウ　「地域生活の支援」

（ア）　世話人の専門知識向上等のため、グループホーム関係者会議を定期的に開催（５月より１か月おきに年６回実施）し、その際ミニ研修を実施した。この他法人内研修への参加を促すとともに欠席した場合は、資料の配布のみならず、研修会を再設定し可能な限り情報提供に努めた。

（イ）　グループホーム関係者会議は年度内に６回実施し、ミニ研修やグループ討議等により専門知識の向上と世話人とケース担当者の日常的な連携を積極的に進めた。また、サービス管理責任者やバックアップ施設の担当課長が定期的に各ホームを訪問することは難しかったが、必要に応じて訪問し、世話人との連携強化と支援・助言を行った。

（ウ）　グループホームと各施設との連携は、各ケースに関する情報（支援計画や都度の支援方針・服薬管理など）について必要に応じて共有を図った。会議・研修等については、参加できない場合の資料提供等が確実に実施できるようにした。課題の吸い上げについては、グループホーム関係者会議の場を活用して実施した。

（エ）　地域との連携を図るため、学校や関係機関等との取り組みを積極的に進めることを計画したが、今年度は新型コロナ感染対策のため、実質的な活動はできなかった。

エ　「職場の環境」

（ア）　「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」の確実な実施と朝昼夕の申し送りを密に行うことにより、ケース毎の問題だけでなく職務上の課題等も共有できるようにした。各施設間で作業等の課題解決に向け、職員間の共通理解と創意工夫に積極的に取り組めるよう配慮した。

（イ）　利用者・職員の状況を的確に把握し、問題発生の未然防止と問題発生時の早急な対処ができるよう管理職間の連携を密にした。ストレスチェックは継続して実施し、その結果から職員個々の状況を確認するとともに職場自体の抱える問題も早期に発見・対処できるように配慮した。

（５）自己評価　（田中大生）

ア　評価結果

（ア）分析方法　　着眼点数の　７割以上　「ａ」

７割未満４割以上　「ｂ」

４割未満　「ｃ」

（イ）評価結果

【共通評価基準】

Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ－１　理念・基本方針

Ⅰ－１－（１）　理念、基本方針が確立・周知されている。			自己評価結果
1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a

Ⅰ－２　経営状況の把握

Ⅰ－２－（１）　経営環境の変化等に適切に対応している。			自己評価結果
2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a

Ⅰ－３　事業計画の策定

Ⅰ－３－（１）　中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			自己評価結果
4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
Ⅰ－３－（２）　事業計画が適切に策定されている。			自己評価結果
6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
7	②	事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a

Ⅰ－４　福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

Ⅰ－４－（１）　質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。			自己評価結果
8	①	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
9	②	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a

Ⅱ　組織の運営管理

Ⅱ－１　管理者の責任とリーダーシップ

Ⅱ－１－（１）　管理者の責任が明確にされている。			自己評価結果
10	①	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
11	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
Ⅱ－１－（２）　管理者のリーダーシップが発揮されている。			自己評価結果
12	①	福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
13	②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a

Ⅱ－２　福祉人材の確保・育成

Ⅱ－２－（１）　福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			自己評価結果
14	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	c
15	②	総合的な人事管理が行われている。	a
Ⅱ－２－（２）　職員の就業状況に配慮がなされている。			自己評価結果
16	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	b
Ⅱ－２－（３）　職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			自己評価結果
17	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
18	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
19	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
Ⅱ－２－（４）　実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			自己評価結果
20	①	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b

Ⅱ－３　運営の透明性の確保

Ⅱ－３－（１）　運営の透明性を確保するための取組が行われている。			自己評価結果
21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	c
22	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a

Ⅱ－４　地域との交流、地域貢献

Ⅱ－４－（１）　地域との関係が適切に確保されている。			自己評価結果
23	①	利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
Ⅱ－４－（２）　関係機関との連携が確保されている。			自己評価結果
25	①	福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
Ⅱ－４－（３）　地域の福祉向上のための取組を行っている。			自己評価結果
26	①	福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	a
27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b

Ⅲ　適切な福祉サービスの実施

Ⅲ－１　利用者本位の福祉サービス

Ⅲ－１－（１）　利用者を尊重する姿勢が明示されている。			自己評価結果
28	①	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
29	②	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a

Ⅲ－１－（２）　福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。			自己評価結果
30	①	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a
31	②	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	b
32	③	福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	b
Ⅲ－１－（３）　利用者満足の向上に努めている。			自己評価結果
33	①	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
Ⅲ－１－（４）　利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			自己評価結果
34	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	c
35	②	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
36	③	利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
Ⅲ－１－（５）　安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。			自己評価結果
37	①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
38	②	感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
39	③	災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	c

Ⅲ－２　福祉サービスの質の確保

Ⅲ－２－（１）　提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			自己評価結果
40	①	提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a
41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
Ⅲ－２－（２）　適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。			自己評価結果
42	①	アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	a
43	②	定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	a
Ⅲ－２－（３）　福祉サービス実施の記録が適切に行われている。			自己評価結果
44	①	利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化さている。	a
45	②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b

【内容評価基準】

Ａ－１　利用者の尊重と権利擁護

Ａ－１－（１）　自己決定の尊重			自己評価結果
Ａ①	①	利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
Ａ－１－（２）　権利侵害の防止等			自己評価結果
Ａ②	①	利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a

Ａ－２　生活支援

Ａ－２－（１）　支援の基本			自己評価結果
Ａ③	①	利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
Ａ④	②	利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
Ａ⑤	③	利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
Ａ⑥	④	個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
Ａ⑦	⑤	利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
Ａ－２－（２）　日常的な生活支援			自己評価結果
Ａ⑧	①	個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
Ａ－２－（３）　生活環境			自己評価結果
Ａ⑨	①	利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
Ａ－２－（４）　機能訓練・生活訓練			自己評価結果
Ａ⑩	①	利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
Ａ－２－（５）　健康管理・医療的な支援			自己評価結果
Ａ⑪	①	利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
Ａ⑫	②	医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a
Ａ－２－（６）　社会参加、学習支援			自己評価結果
Ａ⑬	①	利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
Ａ－２－（７）　地域生活への移行と地域生活の支援			自己評価結果
Ａ⑭	①	利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
Ａ－２－（８）　家族等との連携・交流と家族支援			自己評価結果
Ａ⑮	①	利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a

Ａ－４　就労支援

Ａ－４－（１）　就労支援			自己評価結果
Ａ⑰	①	利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
Ａ⑱	②	利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。	a
Ａ⑲	③	職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a

イ　分析

（ア）共通評価基準

Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織

平成３１年度事業計画により「理念・基本方針」を、明文化し周知され、さらに、わかりやすく説明された資料の作成と利用者や保護者への周知を図り、「項目Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織」が全項目「ａ」評価となる。令和２年度も継続。

※ 事業計画７広報（３）福祉サービス広報、１５地域交流等（３）情報の収集と公開 参照

Ⅱ　組織の運営管理

「管理者の責任とリーダーシップ」の評価は良好であるがさらに各施設長が自らの役割と責任について令和２年７月３１日発行の広報阿闍羅に掲載し表明したことにより項目全てに該当した。「人材確保や育成」については、いまだ脆弱な点が多い。令和２年２月１８日に青森県保育・障害福祉サービス事業所等認証評価制度の認証を受けたが、未整備な個所がまだある。その中で特に「福祉人材の確保・定着に関する具体的な計画・実施」の評価が低い。**必要な福祉人材確保・定着等に関する具体的な計画の確立と取り組みの実施**および、**働きやすい職場作りに関する取り組み**などがあげられるが、時間が必要な項目もあることから、できる項目にひとつずつ取り組みたい。(「実習生等の福祉サービスに関わる研修・育成」番号２０評価結果ｃ→ｂ）

「運営の透明性の確保」については、取り組みはされているが、その情報公開部分が不足している。社会福祉法人は地域に必要とされる組織でなくてはならないということを再認識し、令和３年度は地域に対し、**法人の理念やビジョンを明示・説明し、法人の存在意義や役割を明確にするよう努める**ことが必要である。

「地域との交流、地域貢献」は、昨年度からの取り組みもあり、全体的に良い評価となっている。この項目に於ける今後重要となるキーワードは「福祉ニーズの把握」である。**民生・児童委員との会議の開催などを通じ、具体的な地域の福祉ニーズを把握**し、それをふまえ事業や活動に活かすことができるよう事業の計画を策定することが求められる。令和３年度は福祉ニーズ把握をし、令和４年度からは。阿闍羅会の事業方針と福祉ニーズをすり合わせ、その後の事業展開を計画したい。

Ⅲ　適切な福祉サービスの実施

「利用者本位の福祉サービス」では利用者を尊重した福祉サービスの提供や、権利擁護に配慮した福祉サービスの提供については、よく取り組まれている。また、令和２年度には施設の紹介パンフレットを大鰐町役場、大鰐町中央公民館、大鰐町総合福祉センターの３個所に設置。利用者満足度調査の実施、感染症対策など取り組んだ。（番号３０評価結果ｂ→ａ、番号３３評価結果ｂ→ａ、番号３８評価結果ｂ→ａ）

令和３年度からの取り組みとして、**苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物と資料の作成・配布・説明**ならびに作成された**避難確保計画に沿った訓練の計画策定と実施**が考えられる。

「福祉サービスの質の確保」は、ほとんどが評価ａである。残る課題は、当法人

の**個人情報保護方針の再確認と見直し、その職員研修の実施**である。

（イ）内容評価基準

令和元年度評価結果をふまえ、対象外や該当しないなどの項目を見直した。当評価基準の全項目が「ａ」評価となっている。今後も継続したい。

また、自己決定の尊重と権利侵害の防止等について、令和３年度に再確認し、更なる取り組みを徹底したいと考える。

（ウ）令和３年度の事業計画書　計画内容

評価結果と分析から、下記のとおり計画した。

① 福祉サービスの提供に関わる専門職（有資格の職員）の配置等、「必要な福祉人材や人員体制」について具体的な計画作成

② 働きやすい職場作りに関する取り組みとして、「福祉人材や人員体制」に関する具体的な計画に反映した改善策の立案と実施

③ 「法人理念・福祉サービスの内容・存在意義・事業活動等」を、地域へ明示・説明

④ 民生・児童委員との会議の開催などを通じ、「具体的な地域の福祉ニーズ」を把握

⑤ 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物と資料の作成・配布・説明

⑥ サービスの開始・変更時に、利用者がわかりやすいように工夫された資料を用いて説明するための「わかりやすい版重要事項説明書」の作成

⑦ 「避難確保計画」に添った訓練の計画策定と実施並びに災害時の対応体制の構築と食糧等の備蓄

⑧ 「個人情報保護方針」の見直しと、職員研修の実施

（エ）取り組み担当者

① 佐藤直幸	② 中平恵美、中嶋綾子
③ 田中大生	④ 笹田和夫
⑤ 植田善久	⑥ 中畑幸
⑦ 白石安英	⑧ 三上拓雄

（６）総合的な福利厚生（三上拓雄）

ア　令和２年度までに提供している「法定福利厚生」

・雇用保険
・健康保険
・労災保険
・定期健康診断の実施

イ　令和２年度までに提供している「法定外福利厚生」

・資格手当の支給
・扶養手当の支給
・通勤手当の支給
・住居手当の支給
・資格取得の支援
・育児・介護休暇の支援

・勤務時間短縮の支援
・特別休暇の支援
・職員互助会の活動運営

ウ　福利厚生のアンケート調査

（ア）実施期間　　令和２年１１月

（イ）対 象 者　　フルタイム職員　１６／１８名

（ウ）アンケート結果

①	インフルエンザの予防接種費用負担	９	＋１
②	法定外健康診断の費用補助	８	
②	制服・作業服の貸与	８	
④	誕生日休暇	７	＋２
⑤	クリスマスケーキプレゼント	４	
⑤	財形貯蓄	４	
⑦	バースデーケーキプレゼント	２	
⑦	一部法人負担の生命保険加入	２	
⑨	自動車保険の団体加入制度	１	

⑩　その他の希望

・コロナ予防接種費用負担　①
・誕生日に商品券のプレゼント　④
・誕生日賞与　④

エ　令和３年度から新たに提供する「法定外福利厚生」

・インフルエンザの予防接種費用負担

２　生活介護　（中畑幸、中平恵美）

（１）事業目的

常時介護を必要とする方に入浴や排泄、食事等の介護や、創作活動、生産活動等の機会を提供した。また、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、生活能力の向上のために必要な援助を行うことを目的とした。

そのため、一人ひとりの持つ能力を最大限に生かし、作業・生活を中心とした小集団によるプログラムと個別ケアの二本柱で支援を行った。

（２）事業概要

ア　身体能力の訓練・維持向上

ＡＤＬを高める取り組みを行った。

イ　生活改善

ＱＯＬを高める取り組みを行った。

ウ　創作的活動の機会

就労継続支援Ｂ型実施作業の手伝いや折り紙、絵画等を行った。

エ　排泄及び食事・入浴等の介護

毎週火曜日の入浴支援をおこなった。（男性１名、女性１名）
それ以外の日は必要に応じて行っている。

オ　余暇活動（週間行事）

運動を中心に行った。また、個々の能力に応じた活動を行った。

（３）支援内容

事業目的に掲げるサービスを基にした内容のプログラムに沿って、創作活動や、機能訓練等を行った。

また、就労継続支援Ｂ型を利用されている方々との交流も大切にし、変化に富んだ楽しい時間を過ごしていただけるような工夫をしながら日中活動を行った。その交流の中で情報や技術を習得し、社会参加への第一歩となれるよう支援をおこ行った。

ア　生活支援

（ア）健康チェック

１日２回（午前・午後）バイタルチェックをおこなった。検温時に熱が高い場合やいつもと違う様子があった場合はすぐにご家族に連絡をして迎えに来て貰う等の対応し家族との連携を図った。また、月に１回第１火曜日、医師による往診を行ったが、コロナ感染拡大などを受け、２年度は５月の往診は行っていない。

（イ）掃除・洗濯・調理等の生活技能訓練活動

ＳＳＴによるコミュニケーション能力向上のための支援を行った。

（ウ）排泄の支援および介助

必要に応じ支援を行った。

（エ）入浴の支援および介助

毎週火曜日に入浴介助を行った。２年度は男性１名、女性１名。それ以外は必要に応じて行った。

イ　活動支援

（ア）生産活動

しいたけ作業の手伝いや銅線剥き、トレー洗い、缶洗いなど、個々の能力に合わせて活動を行った。また、個人の能力を引き出すために、様々なことを体験してもらい、新たにできる活動（散水等）を増やした。また、生産活動に参加することにより体力作りもでき、大幅な体重増加の方はいなく健康管理に役立った。

（イ）創作活動

塗り絵や折紙、スクラッチアートなどを行っている。

（ウ）余暇活動

運動不足による体重の増加を防止するため、散歩など体を動かす活動をそれぞれの利用者に合わせて取り組んだ。また、散歩をしながら空き缶やゴミを拾うといったボランティア活動も行った。

普段外出する機会が少ない利用者には、行事を利用して色々体験し楽しめるようにした。

（エ）機能訓練

ラジオ体操やストレッチ、ウォーキング等をおこなった。また、本人の身体能力に合わせたリハビリ、バランスボールを行った。

（オ）その他

自閉症に対する支援、精神障害に対する支援、ダウン症に対する支援等、個々のニーズに合わせたプログラム作りを行い、混乱がないように事前にスケジュールの確認をした。また、個別対応が必要な利用者の方には本人の状況を見ながら、職員が付き添い、不安のないように支援をおこなった。入浴介助も施設での入浴が困難となったため、グループホームでの入浴介助を行う等して、安全に配慮しながら支援を行った。

（４）年間収入

５４３，７４０円

３　就労継続支援Ｂ型

（１）生活支援

ア　ワークキャンパス大鰐　（中平恵美）

（ア）総括

日常生活に必要な、基本的生活習慣の自立を目的とした。

自立性を養い、毎日の積み重ねによって望ましい習慣の形成や、社会生活の態度・性格の社会的適応性を育成し、地域生活への移行を念頭におき、保護者や関係機関と情報　共有しながら支援を行った。

（イ）支援内容

①　基本的習慣の定着

あいさつ、時間を守る、排泄、生理の手当て、入浴、衣類の着脱、衣類の調整、洗濯、洗濯した衣類のたたみ方、歯磨き、手洗い、うがい、手指のアルコール消毒、食事とその後始末、整理整頓、掃除などの支援を行った。

②　コミュニケーションの支援

a　言語と受容と表出に関する支援を行った。

b　パニックに対する本人及び周りの利用者への理解に関する支援を行った。

c　コミュニケーション手段の選択と活用に関する支援を行った。

③　行動に支障がある利用者に対する支援

a　精神面及び身体面に関する理解とそれに関する支援を行った。

b　強度行動障害への理解とそれに関する支援を行った。

c　自閉症に対する理解とそれに関する支援を行った。

④　日常生活を送るために安全な環境作りの支援

a　奇数月に職員が安全巡視を行って危険な所を確認し改善した。

b　作業場の整理整頓を実施し足場等に危険がないように配慮した。

c　行事活動及び休憩時間等に怪我をしないように注意した。

d　危険と思われる物（刃物、工具など）は職員室や施錠できる場所に保管した。

⑤　その他の支援

ヒヤリハットの報告を共有し、事故や怪我が起きないよう再発防止に努めた。

イ　ワークショップ大鰐　（山内彩子）

（ア）総括

日常生活に必要な、基本的生活習慣の自立を目的とした。

自立性を養い、毎日の積み重ねによって望ましい習慣の形成や、社会生活におけるマナーやルール等の社会的適応性を育成し、地域生活への移行を念頭におき、保護者及び関係機関と情報共有しながら支援した。

また、グループホームの利用者においては保護者や世話人などと情報共有しながら自立した生活を送れるよう支援した。

（イ）支援内容

①　基本的習慣の定着

あいさつ、排泄、生理の手当て、衣類の着脱・調整・たたみ方、歯磨き、手洗いとマスク装着の徹底、食事とその後始末、整理整頓、掃除、洗濯支援をした。

②　コミュニケーションの支援

言語表出が難しい利用者に対しては、できるだけ普通の言葉で話しかけ、行動を気に掛けるよう配慮した。

聴覚に障害のある利用者に対しては、聞き間違いによるトラブルがないよう、本人の近くでゆっくりはっきり話すよう配慮した。

パニックに対する本人への支援としては、本人が何を訴えているのか職員が気づくことや、パニックにならないよう視覚支援を用いたりした。

③　行動に支障がある利用者に対する支援

精神障害に関する理解とそれに関する支援として、利用者が納得できるまで話しを聞き、できるだけ本人の気持ちに寄り添えるよう配慮した。

聴覚障害に関する理解とそれに関する支援として、筆談を用い、作業説明をするときは、個別に話す、顔をみて話すなどの配慮をした。

また、車輌の乗り降りなど介助が必要な際など安全面に配慮した。

発達障害に関する支援として、それぞれの特性に応じた環境作り（特性に応じた作業に取り組ませる）やスケジュールの変更などは、事前に知らせるなど配慮した。

④　日常生活を送るために必要な安全な環境作りの支援

作業場を整理整頓し足場等に危険がなく、利用者が作業しやすいように配慮した。

行事活動及び休憩時間等に怪我をしないように注意した。

危険と思われる工具は、事務室に保管した。

奇数月に職員が両施設やグループホームの安全巡視を行い危険と思われる箇所の改善を行った。

ヒヤリハットの報告を徹底し再発防止に勤めるように話し合いを行った。

⑤　その他の支援

利用者が自立するため保護者との連携、協力を図りながら支援を行った。

コロナウイルス対策として、手洗い・うがいの徹底を指導し、正しいマスクの付け方と自宅での布マスクの洗い方を指導した。

（２）作業支援

ア　ワークキャンパス大鰐　（植田善久）

（ア）総括

令和２年度は３人の新規利用者を迎えてのスタートとなった。今年度も自主的な挨拶・時間の遵守の他に、相手を思いやる心を育てること・利用者の健康面に配慮することなどを重点項目とした。

挨拶に関しては自主的にできる利用者もいる一方、職員からの挨拶を受けて挨拶をする利用者もいるので、自分から挨拶ができるように促しながら支援を行った。

時間遵守に関しては時間どおりに作業に出ることのできない利用者や、休み明けに必ず体調不良を訴える利用者が見られ、ケース会議等で障害特性など考慮し、支援方法を検討。現在継続中である。

思いやりに関しては他害や中傷などの特異的な行動をする利用者はおらず、他利用者の面倒を見る場面が数多く見られた。

今年度はコロナウイルス感染防止のため、外出の自粛や他県からの家族との接触をする場合は事前に情報をいただけるよう、ご家族にお願いをしていて、大多数の利用者が守っているが、イベント等に出かけている利用者も少数いた。今のところコロナウイルスの感染者は出ていないが、青森県でもコロナウイルス感染者が急増しつつあるので引き続き注意を促し続けなければいけないと感じる。

また、今年度は２名の利用者が入院しており、１人は目の手術、もう１人は癌の手術と高齢化に伴う体調の変化等が現れ始めている現状である。利用者の特徴や生活様式にも変化がで始めている。いままで以上に作業中の利用者の様子を注意深く見守る必要が出てきたと感じた。

（イ）銅線の被服剥き

a　年間収入　　４９２，５４１円

b　令和２年度の状況

概ね、午後作業として実施。

c　令和３年度への課題

銅線剥きは例年通り行っているが、利用者のスピードも早くなっているので定期的に銅線を確保できるようにしていきたい。

（ウ）部品の組み立て（有限会社アール）

a　年間収入　　４３，２９９円

b　令和２年度の状況

令和元年１０月に関東付近を襲った台風の影響でアールさんからの部品の受注が極端に減り、特にＬＥＤは１回も来なかった。今後は徐々に増えていくとのことなので期待したい。

c　令和３年度への課題

現状維持とし、部品組み立ての仕事依頼があったらその都度対応していく。

（エ）その他の作業

a　年間収入　　９，７００円

b　令和２年度の状況

主にアルミ缶洗浄を実施。

c　令和３年度への課題

当初計画としてあった、雑巾作りをやることができなかったので次年度には実施できるようにしたい。また、今年度も近隣農家から依頼のあった枝拾いだが、迅速に対応し、作業期間内に終了。来年度も仕事依頼があったら、滞りなく作業し期間内の終了を目標としたい。施設内外の環境整備については作業の合間に実施していくことができた。次年度も定期的に行いたい。

イ　ワークショップ大鰐　（中嶋綾子）

（ア）総括

しいたけ作業を主軸に日々の作業を繰り返し行うことで職員、利用者共にハウス管理、調整等定着しつつある。その他受託作業としてリサイクル、水道メーター分解、フルーツキャップ束ね作業を隙間時間に取り組むことができた。作業によって得手不得手は個々に見られたが何事も挑戦することで作業に対しての向上心や達成感は図れたと思う。

令和３年度も利用者の適正を見極めて可能な限り能力を引き出せる支援を引き続きおこなっていきたい。

令和２年度目標工賃８，５００円に対し１０，１１７円であった。

（イ）受託部門

①　リサイクル（東北クリーン）

a　年間収入　　１，１６９，４６４円

b　令和２年度の状況

ほとんどの利用者が作業全体の流れを理解しやるべき事を自主的に取り組むことができていた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり１回当たりの回収量が減ったように思われる。

c　令和３年度への課題

感染症予防のため作業場の衛生面に気をつける。

②　水道メーターの分解（東管工業）

a　年間収入　　１０，６２０円

b　令和２年度の状況

作業が薄くなった時の合間作業として行い分解作業やフレコンバックからの分別作業等は効率良くできていた。

c　令和３年度への課題

分解と簡単な分別はできているが種別ごとの分別ができる利用者を育成する。

③　フルーツキャップ作業（DMノバフォーム）

a　年間収入　　１５９，９４２円

b　令和２年度の状況

納期がないという利点から始めた作業ではあるが作業効率を考え治具の使用や個別の作業台の設置で安定した作業環境で日々取り組めるようになった。

c　令和３年度への課題

現在職員が主に行っている袋詰め作業ができる利用者を育成する。

（ウ）自主部門

① タオル名入れ印刷

a 年間収入　　２３５，３８４円

b 令和３年度の状況

安定した受注がカッパ温泉からあった。

新型コロナウイルス感染予防のため、ねぶたまつりが中止になり粗品の受注がなかった。

c 令和３年度への課題

印刷の補助や印刷ができる利用者を育成する。

受注があったときすぐ発送できるように在庫を確保しておく。

ウ　しいたけ事業（共通）　（金枝友和、鎌田健司）

（ア）年間収入　　２０，７８７，３４２円

（内訳）

サンフェスタ石川	153,320	学校給食センター	213,564
碇ヶ関開発（株）	193,000	鰐ｃｏｍｅ	484,026
給食（法人）	80,400	木村食品工業	444,690
轍ファーム	349,690	(株)はとや製菓	609,040
紅屋商事(株)	4,542,293	東日流青果(株)	5,641,050
ｸﾘｴｲﾄﾌｧｰﾑ仙台	412,408	(有)雪の店	61,600
そうま屋米酒店	17,300	津軽こみせ駅	1,680
弘前中央青果	2,749,653	大鰐町ふるさと納税	63,000
現 金 販 売	4,770,678		

（イ）栽培記録

栽培菌種	入荷菌床数	入荷時期	発生期間
北研７０５号	4000菌床（２号）	令和元年　３月	令和２年　７月 ～ 令和３年　３月
北研６０７号	5600菌床（ Ｄ ）	令和２年　５月	令和２年　８月 ～ 令和３年　５月
北研６０７号	4000菌床（ Ｂ ）	令和２年　６月	令和２年　８月 ～ 令和３年　４月
北研６０７号	3400菌床（ Ａ ）	令和２年　７月	令和２年　９月 ～ 令和３年　７月
北研６０７号	3600菌床（１号）	令和２年１０月	令和３年　１月 ～ 令和３年１２月
北研７０５号	3400菌床（３号）	令和３年　１月	令和３年　４月 ～ 令和４年　２月
令和２年度　入荷菌床合計数　２４，０００菌床			

（ウ）令和２年度の状況

４月初めに２号・Ａ・Ｂ・Ｄと入荷時期が重なったことで、９月下旬までのしいたけ発生量の確保ができず収入に結びつかなかった。１０月を過ぎてからは収穫量も増え始めコンスタントに出荷できるようになっている。次年度では年間を通してのバランスを見ながらの入荷も必要だと感じた。１０月以降では、収穫量が上がったことに比例し、売り上げも伸びている。コロナウイルスによる影響で訪問販売やイベント販売での収益が上がらなかったのは痛手ではあるが、それら以外でのカブセンターや東日流青果の売り上げが格段に上がっている。弘前中央青果も

比較的値段の高い３００ｇパックをメインに出荷したことや、日々の配達、無人販売なども売上アップにつながった。１１月より(有)雪の店と新規契約を結んでいる。大きな売り上げとはならないが徐々に定期購買を希望するお客様も増えてきている。

令和２年度では、月間売上が２００万を超える月が５ヶ月あり、令和３年度に向けての大きな励みになった。

（エ）令和３年度への課題

収穫量及び在庫量と出荷に必要な量のバランスの配慮。

１号から２号ハウスでエアコンを使用したことによる菌床の乾燥の対処。

ショップとキャンパスの利用者の共同作業の体制作り。

両施設合同事業（一本化）に向けた環境作り。（ハウス整備・道具の準備等）

（オ）福祉農園等支援事業（「粉しいたけ」製品開発）報告　（笹田和夫）

①　実施内容

７月	７日（火）	第１回職員運営委員会（事業計画、キャップ集計状況等）
１０月	２日（金）	「あかつきの会」との打ち合わせ（レシピに載せる料理の打ち合わせ等）
１０月	８日（木）	第２回職員運営委員会（新商品発表イベント等）
１１月	５日（木）	「あかつきの会」との協議会（「新商品発表イベント」で配布する料理の決定、レシピの作製について等）
１１月２７日（金）		「あかつきの会」へ新商品「粉しいたけ」を使った料理の作製依頼
１１月２７日（金）		新商品「粉しいたけ」配布（鰐 come 職員など１６０名）
２月２７日（土）		「粉しいたけ」を使った調理実習（減塩料理）と栄養指導研修
３月	９日（火）	「あかつきの会」との協議会（今年度の振り返りと来年度に向けて）

②　令和２年度の成果

新型コロナウイルス拡大の影響により、事業内容の一部変更を余儀なくされたが、「あかつきの会」や大鰐町役場保健福祉課等との連携により、以下のことを行うことができた。

ａ　新商品「粉しいたけ」（容器・レシピ・大鰐しいたけ伝説）を作製した。

ｂ　粉しいたけを使った料理レシピ（春夏秋冬の４パターン）を作製した。

ｃ　新商品発表イベントはできなかったが、鰐 come 職員など１６０名へ新商品「粉しいたけ」の配布し、アンケートを依頼し回収することができた。

ｄ　回収したアンケートを分析し、次年度の計画立案に生かすことができた。例として、今回使用した容器については、多くの方から肯定的なご意見をいただいた。

ｅ　大鰐町保健福祉課管理栄養士さんを招聘して、「粉しいたけ」を使った調理実習（減塩料理）と栄養指導研修を行うことができた。当日は利用者に加えて保護者の皆様にも参加してもらい、本事業についても理解を深めてい

ただいた。

f　法人内職員間の情報共有については、職員運営委員会や全職員が参加する事業会議をとおして共通理解を図った。また、容器に貼るシールについては全職員の意見を集約し決定した。

③　令和３年度に向けて

令和３年度は、本事業３年計画の最終年度である。農林水産省からの補助金はないが、今年度の成果を生かし創意工夫をしながら以下のように進めていきたい。

a　販売時期の正式決定（令和３年１０月頃）と準備

b　販売価格の検討

c　商品の種類の検討（容器と詰め替え用）

d　発表イベントの開催（鰐 come、商人市との共催）

e　広報活動（新聞社、大鰐役場等）

（３）工賃向上計画に関する報告

ア　ワークキャンパス大鰐　（植田善久）

（ア）目標工賃達成実績

		実績				目標	R2年度対H29年度比（%）
		29年度	30年度	元年度	02年度	03年度	
A 目標平均工賃（月額）（円）	E÷F	10,640	10,800	11,500	11,631	12,000	109(%)
B 年間総収入　（千円）		16,260	13,687	18,500	20,787	21,000	128(%)
C 年間総原価(工賃除く)（千円）		9,747	10,879	12,000	12,706	14,000	130(%)
D 工賃支払前収支　（千円）	B－C	5,782	2,808	6,500	8,081	7,000	140(%)
E 年間工賃総額　（千円）		2,708	2,808	2,709	2,980	3,000	110(%)
F 年間延べ利用者数　（人）		404	400	334	456	430	113(%)

※　工賃実績平均値計算式　総支給工賃÷総開所日数（行事日を除く）×２０日

※　新規利用者利用開始から３ヶ月分と、不定期利用者は計算から除く。

（イ）目標工賃達成状況

今年度は一人当たりの平均工賃月額を１１，５００円として目指した結果、平均１１，６３１円となり目標を達成した。３人の新規利用者や入院のため長期で休まなければいけない利用者もいたのだが目標を達成できた。達成できた理由の一つとしてはやはり新しい工賃評価が大きな要因と考えられるのだが、殆どの利用者が休まずに頑張った成果だと思う。

（ウ）令和３年度への課題

しいたけの収穫量に関してはハウス６棟が全て稼働したこともあり、収穫量は過去最高を記録した。特に９月末～１１月中旬頃までは１００kg越えが何日も続いたため、休日出勤に出た職員の負担が多く疲弊してしまった。収穫量の増大と職員の負担軽減は相反する事柄であるが、できるだけ職員の負担を減らすような方法を模索していきたい。

販売先の拡大に関しては今年度新規に雪の店と契約をして、１２月から納品している。現在定期的に購入希望をしたいというお客様もいるため、ますます需要が伸びていくと思われる。その他、年間をとおしてカブセンター、東日流青果へ納品できたことが売上増に繋がったと思われる。

一方、コロナウイルスの影響で、今年度のワークまつりの開催中止や、地域のイベントが中止になり、本来であれば大量に販売することができた生しいたけを、弘果に出荷せざるを得ない状況もあり、値段の暴落を招いたことが非常に惜しまれる。もし、イベントで販売できたのであれば、しいたけの売り上げはもう少し上乗せできたかと思われる。

職員のスキルアップに関しては、定期巡回にきた北研佐藤さんからの情報を、キャンパス・ショップ職員へ回覧したりなど情報共有に努めた。ハウスの発生状況や刺激方法など情報を共有することで理解が得られたと思われる。次年度も続けていきたい。

イ　ワークショップ大鰐　（山中司）

（ア）目標工賃達成実績

		実績				目標	R2 年度対 H29 年度比 (%)
		29 年度	30 年度	01 年度	02 年度	03 年度	
A 目標平均工賃(月額)　(円)	E÷F	8,103	8,240	8,561	10,117	10,117	125 (%)
B 年間総収入　(千円)		4,211	5,648	4,390	5,351	4,847	172 (%)
C 年間総原価(工賃除く)(千円)		1,988	1,677	987	598	598	30 (%)
D 工賃支払前収支　(千円)	B－C	2,233	3,971	3,403	4,847	4,249	217 (%)
E 年間工賃総額　(千円)		3,196	3,447	3,563	4,249	4,249	133 (%)
F年間延べ利用者数　(人)		394	418	420	420	420	

※　工賃実績平均値計算式　総支給工賃÷総開所日数（行事日を除く）×２０日

※　新規利用者利用開始から３ヶ月分と、不定期利用者は計算から除く。

（イ）目標工賃達成状況

令和２年度は賞与の支給もあり、平均工賃が初めて１０，０００円を超えることができている。

令和３年度もしいたけ一本化に向け、しいたけ事業を中心に取り組み、リサイクルや水道メーター、フルーツキャップ作業やタオルなど施設内作業も一緒に取り組んでいく。

（ウ）令和３年度への課題

①　しいたけ事業

職員は、菌床入荷から廃棄までのスケジュールを計画できるよう、習熟する必要がある。

計量・袋詰めなどの調整作業、及び干ししいたけのシーラーができる利用者の育成。

キャンパス・ショップ利用者の作業交流の場を増やし、一本化に向け取り組む。

② 東北クリーン（リサイクル）
衛生管理を工夫する。
③ 東管工業（水道メーターの分解）
分解後の種分け作業ができる利用者の育成。
④ ＤＭノバフォーム（フルーツキャップ束ね）
きれいにそろえて束ねができる利用者の育成。
袋つめができる利用者の育成。
⑤ タオル名入れ印刷
タオル印刷の補助ができる利用者の育成。
たたみと袋詰めができる利用者が限られているため、たたみと袋詰めができる利用者の育成。

４　拠点における各事業共通の支援

（１）保健支援

ア　ワークキャンパス大鰐　（中畑幸）

（ア）保健指導年間実施日

① 定期健康診断
春　　中止
秋　　実施日　１０月６日（火）
実施者　２９名
場所ワークキャンパス大鰐医務室にて実施

② 身体測定（体温・血圧・体重）　計１２回実施

４／３	・ ５／１２	・ ６／１	・ ７／１	・ ８／３	・ ９／３	
１０／１	・ １１／２	・ １２／１	・ １／６	・ ２／１	・ ３／１	

③ 回診（生活介護利用者対象）
毎月　第１火曜日　午後　小山内先生の回診

④ 大鰐町健康診断（大鰐町総合福祉センター）
婦人科検診・乳ガン検診・骨密度→６月　１日（月）１２：３０～１３：３０
大腸ガン検診　　→７月１０日（金）　９：００～　９：３０

検診項目	工・夏	柴・祐	花・真	山・幸
大腸ガン	－	異常なし	－	精密検査（異常なし）
子宮頸ガン	異常なし	－	異常なし	×
卵巣ガン	異常なし	－	異常なし	×
乳ガン	異常なし	－	－	精密検査（異常なし）
骨密度	－	－	要指導	－

胃がん	－	異常なし	－	－

⑤　インフルエンザ予防接種

実施日時　１１月１７（火）　１３：３０～

実施場所　ワークキャンパス大鰐　医務室

実 施 者　利用者１８名　職員６名

なお、今年度、大鰐町は予防接種費用助成金が出たため、大鰐町在住者の予防接種費用は免除されている。

※　令和２年度　インフルエンザ罹患者　０人

（イ）保健日誌からのまとめ

感染症予防のために毎日の検温・うがい・手洗い・マスク着用を徹底した。（アルコール消毒液を設置）生活介護者には１日２回（午前・午後）の検温を実施した。また、施設内の換気や消毒も徹底した。更に不要不急の外出を控えていただくなど、保護者への協力も呼びかけた結果、罹患者はいなかった。今後も感染予防を徹底していく必要がある。

６月中旬から９月上旬まで、熱中症予防対策として利用者全員にクールネックを購入した。また、５月中旬からは水分補給として適度に麦茶を提供した。こまめに水分補給と塩分タブレットを摂取し、適度な休憩を取りながら作業を行った。

毎週火曜日、男子利用者（２名）の入浴を実施している。また、入浴介助を行っていた女性利用者が、入浴中にてんかん発作が見られたこともあったため、グループホームでの入浴を施設入浴に変更した。しかし、施設の風呂場はバリアフリー化されていないことから、浴槽の出入りが非常に危険なため、シャワー浴のみに変更している。更に、この利用者の状況が低下の一方を辿っていたため、グループホームにて職員が入浴介助している。なお、この利用者は１０月３１日付で退所となった為、現在は女性利用者の入浴介助は行っていない。今後も状況を見ながら、生活介護の方以外も危険のないよう入浴を行っていく。また、入浴は利用者の健康維持、清潔保持を目的とするだけではなく身体の異常の発見にも繋がることもある。入浴時は身体の観察なども行っていく。入浴の目的は様々あり利用者の障害に応じて、危険がないよう安全な方法で気持ち良く入浴支援を行っていく。

毎月第１火曜日の午後１時３０分より、小山内医院医師がキャンパスに来所して、生活介護利用者対象に回診が行われている。他の利用者については本人から希望がある時のみ診察を行っている。

（ウ）利用者の健康状態

通院介助実施表（通院の詳細は別冊『通院報告書』を参照）

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3
回数	7	6	6	7	6	4	2	3	4	3	2	2

※　コロナウイルス感染拡大のため、薬のみの処方　・・・　６回

健康状態に留意した利用者の詳細は別冊

イ　ワークショップ大鰐　（山内彩子）

（ア）保健指導年間実施日

定期健康診断	身体測定（血圧・体重）
・春の定期健康診断はコロナウイルス感染症予防のため中止。 ・秋の定期健康診断 令和２年１０月２０日（火）	令和　２年　５月１３日 令和　２年　６月１０日 令和　２年　７月１７日 令和　２年　８月２１日 令和　２年　９月１４日 令和　２年１０月　７日 令和　２年１１月１１日 令和　２年１２月　９日 令和　３年　１月１３日 令和　３年　２月２５日 令和　３年　３月１０日
計　１回	計　１１回

（イ）体力測定

１１月１７日（火）　午後の作業を早めに切り上げ１４：３０～実施。

（ウ）保健日誌からのまとめ

毎日の利用者さんの表情や行動からその日の健康状態（特に精神状態）を把握し作業中の事故などを未然に防ぐ様に配慮した。

通年で毎朝の検温を行い、感染症予防のうがい・手洗い・アルコール消毒・マスク装着を徹底し声がけを実施。

梅雨時、夏場の気温上昇時は水分補給や休憩を増やすなどの対策を行った。

インフルエンザ予防接種を１１月１０日（火）に実施した。希望利用者２２名、小山内先生がワークショップ大鰐へ往診。

（エ）利用者の健康状態

※　健康状態に留意した利用者　１１名（詳細は別冊）

（２）余暇活動支援

ア　ワークキャンパス大鰐

（ア）行事等（植田善久）

コロナウイルスの影響で行事の縮小を余儀なくされたが、その中でも職員が工夫を凝らし、余暇活動として楽しい時間を提供できたと感じている。今後も行事縮小となる場合が多々あると思われるが、次年度も継続して工夫を凝らした行事を実施していきたい。

月日（曜日）	行事名	参加者数	実施場所
４月１１日（土）	春の三者面談	利用者１７名 保護者１９名	ワークキャンパス大鰐
５月　２日（土）	工作レク	利用者１７名	ワークキャンパス大鰐
５月　９日（土）	お楽しみ会	利用者１９名	ワークキャンパス大鰐
５月３０日（土）	たこ焼き作り	利用者２０名	ワークキャンパス大鰐

７月　４日（土）	焼き肉レク	利用者２２名	ワークキャンパス大鰐
７月１８日（土）	ピクニックレク	利用者１８名	ワークキャンパス大鰐
８月　１日（土）	流しそうめん	利用者１９名	ワークキャンパス大鰐
８月２２日（土）	キャップアート	利用者１８名	ワークキャンパス大鰐
８月２９日（土）	スクラッチアート	利用者１４名	ワークキャンパス大鰐
９月１９日（土）	縁日を楽しもう会	利用者２４名	ワークキャンパス大鰐
９月２６日（土）	収穫祭	利用者２０名	ワークキャンパス大鰐
１０月１０日（土）	秋の三者面談	利用者１４名 保護者１４名	ワークキャンパス大鰐
１１月　７日（土）	トントン大相撲	利用者１７名	ワークキャンパス大鰐
１１月２１日（土）	ＤＶＤレク	利用者１９名	ワークキャンパス大鰐
１２月　５日（土）	利用者忘年会	利用者２５名	鰐 come
１２月１９日（土）	クリスマス会	利用者２４名	ワークキャンパス大鰐
１月　９日（土）	新年会	利用者２０名	ワークキャンパス大鰐
１月２３日（土）	チョコレート作り	利用者１５名	ワークキャンパス大鰐
２月１３日（土）	お好み焼き作り	利用者１８名	ワークキャンパス大鰐
２月２７日（土）	栄養指導･調理レク	利用者１４名 保護者　６名	ワークキャンパス大鰐
合計実施回数　２０回		延べ参加者　３７４名	

（イ）利用者会活動

①　利用者会全体会　（金枝友和）

実施日	主な内容
令和　２年　４月　１日（水）	・揚げないアメリカンドックの感想 ・ハーバリウム作りの感想 ・DVD鑑賞の感想 ・鍋作りの感想 ・三者面談について ・２・３月頑張った人 ・新年度の利用者担当の発表をしている
６月　１日（月）	・三者面談の感想 ・ねんど作りの感想 ・お楽しみ会の感想 ・たこ焼き作りの感想 ・７月のレクの予定を発表している ・４・５月頑張った人 ・美化委員会より掃除当番のお知らせ
８月　３日（月）	・焼き肉レクの感想 ・ピクニックの感想 ・８月・９月の行事予定

	・６月・７月頑張った人 ・お盆休みの期間を伝えた ・今後のレクについて希望を聞いた
１０月　１日（木）	・アレンジそうめんの感想 ・キャップアートレクの感想 ・スクラッチアートレクの感想 ・収穫祭の感想 ・１０月・１１月の行事予定 ・８月・９月頑張った人 ・美化委員会より掃除当番のお知らせ
１２月　１日（火）	・三者面談の感想 ・トントン相撲の感想 ・DVDレクの感想 ・１２月・１月の行事予定 ・１０月・１１月頑張った人 ・来年度の行事の希望を聞いた
令和　３年　２月　３日（水）	・忘年会の感想 ・クリスマス会の感想 ・新年会の感想 ・調理レクの感想 ・２月・３月の行事予定 ・１２月・１月頑張った人 ・利用者満足度調査について ・２月の掃除当番について ・外食レクは施設内で行うことのお知らせをした。

②　行事委員会　（金枝友和）

令和２年度はコロナの影響もあり、ほぼ活動の場が無かったが、忘年会では司会・出し物などみんなで役割を決めしっかり進行することができた。行事委員会をとおして、みんなで協力し合うことで協調性を養うことができたと思う。

・　令和２年　９月２９日（火）１２：２５～１２：４０　忘年会行き先会議
・　令和２年１２月　１日（火）１２：３０～１２：４０　忘年会出し物会議

③　広報委員会　（植田善久）

毎月月初めに委員会を開くことができた。利用者も積極的に参加した。

④　お茶委員会　（中畑幸）

利用者の毎日のお茶の準備、休憩時のテーブル拭きやおやつの準備など各担当を決めて行った。毎日の委員会の仕事をとおし、自主性・責任感を養った。

各担当の活動日は、毎日『お茶休憩時』、毎週水曜日は『お茶休憩時・昼休み』、毎週金曜日は『お茶休憩時・昼休み』に行った。それぞれの担当が不在の時は、別の担当者が行った。また、毎月第３週目を会議日とし、翌月のおや

つの計画を立てている。

月	日	曜日	委員会	場　　所	備考
４	１４	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　７名
５	２０	水	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　７名
６	１６	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
７	２９	水	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　７名
８	２０	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　７名
９	２４	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
１０	２１	水	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
１１	１７	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
１２	２４	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
１	２１	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
２	２５	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
３	３０	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名

⑤　美化委員会　（中平恵美）

ａ　毎日、掃除道具の管理を行った。

ｂ　毎週金曜日に雑巾を回収し洗濯を行った。

ｃ　掃除用具の破損の点検や補充等を月１回行った。

ｄ　日用品の補充（石鹸、トイレットペーパー、箱ティッシュ等の補充）等は、その都度行った。

ｅ　花の鉢植えを行い、曜日の当番を決めて水やりを行った。（６～１０月頃まで実施。詳細は下記の表参照）

ｆ　季節に応じて施設内の装飾を行った。

ｇ　２ヶ月に１度、委員会で掃除当番を決めて掲示板に掲示した。

ｈ　年２回、大掃除の場所を決めて８月にはホールと作業室の窓拭きなどの大掃除、加湿器や扇風機設置と掃除なども行った。

ｉ　定期的に蜘蛛の巣はらいを行った。（詳細は下記の表参照）

月	日	曜日	委員会	実施内容	備　考
４	１４	火	美化委員会	蜘蛛の巣はらい	利用者　２名
４	２０	月	美化委員会	プランター定植	利用者　４名
６	１１	木	美化委員会	加湿器掃除	利用者　３名
６	２３	火	美化委員会	蜘蛛の巣はらい	利用者　４名
６	３０	火	美化委員会	蜘蛛の巣はらい	利用者　３名
７	７	火	美化委員会	蜘蛛の巣はらい	利用者　５名

7	8	水	美化委員会	花の手入れ	利用者　5名
7	３１	金	美化委員会	プランターの片付け	利用者　1名
9	２４	木	美化委員会	蜘蛛の巣はらい	利用者　2名
9	３０	水	美化委員会	掃除当番話し合い	利用者　5名
１２	２３	水	美化委員会	クリスマスツリー片付け	利用者　2名
１２	２９	火	美化委員会	加湿器掃除	利用者　3名

イ　ワークショップ大鰐

（ア）行事等　（中嶋綾子）

月日（曜日）	行事名	参加者数	実施場所
４月１８日（土）	春の三者面談	利用者２６名 保護者２５名	ワークショップ大鰐
５月　２日（土）	お花見会	利用者１１名	ワークショップ大鰐
５月１６日（土）	ＤＶＤ鑑賞＆あじゃら山散策	利用者１５名	ワークショップ大鰐 あじゃら山
５月３０日（土）	簡易マスク作り バーベキュー	利用者１７名	ワークショップ大鰐
７月１１日（土）	第１回ミニ運動会	利用者１８名	ワークショップ大鰐
７月２３日（木）	趣味の会（ねぷた絵）	利用者２０名	ワークショップ大鰐
８月　１日（土）	第２回ミニ運動会	利用者１７名	ワークショップ大鰐
８月２２日（土）	第３回ミニ運動会	利用者１８名	ワークショップ大鰐
８月２９日（土）	工作（ハーバリウム）	利用者１７名	ワークショップ大鰐
９月　５日（土）	趣味の会 （スクラッチアート）	利用者２０名	ワークショップ大鰐
９月１９日（土）	秋のバスツアー	利用者２５名	岩木、西目屋方面
１０月１７日（土）	秋の三者面談	利用者２１名	ワークショップ大鰐
１１月１４日（土）	ミニショップまつり	利用者１８名	ワークショップ大鰐
１１月２８日（土）	カラオケ	利用者２２名	ワークショップ大鰐
１２月１２日（土）	忘年会	利用者２４名	ワークショップ大鰐
１２月１９日（土）	ミニショップまつり２	利用者１９名	ワークショップ大鰐
１月１６日（土）	新年会	利用者１８名	ワークショップ、大鰐町内
１月３０日（土）	趣味の会 （スクラッチアート）	利用者１６名	ワークショップ大鰐
２月１３日（土）	ＤＶＤ鑑賞	利用者１４名	ワークショップ大鰐
２月２７日（土）	室内ゲーム	利用者１７名	ワークショップ大鰐
合計実施回数　２０回		延べ参加者　３７３名	

（イ）利用者会活動

①　利用者全体会　（山川裕紀子）

利用者全体会前日に役員会を開き利用者全体会の議案の確認を行った。

偶数月の初日に１５：００時から、利用者全体会を実施。利用者主体の活動

であるため進行などを、利用者会役員に進めてもらい職員はアドバイス等で支援している。

行事の感想、各委員会からの報告、その他として利用者に自由に意見を発表してもらった。また、今年度より頑張った人の発表を半期（４月～９月、１０月～１月）に１度とし、各作業や生活面で頑張った人を発表し、利用者会から賞状を贈呈してみんなの前で今後の抱負などを発表してもらった。

実施日	議案（主な内容）
令和　２年　４月　１日（水） 出席　３０名（欠席　５名）	利用者会総会（事業報告、会計報告、事業計画について） 新役員の発表 その他（令和３年度各委員会の希望を募った）
６月　２日（火） 出席　３１名（欠席　４名）	行事についてお知らせ、感想発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表）
８月　３日（月） 出席　３４名（欠席　１名）	行事についてお知らせ、感想発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表）
１０月　１日（木） 出席　３１名（欠席　１名）	行事についてお知らせ、感想発表 頑張った人（４月～９月）の発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表、忘年会でやってみたいことについて希望を募った）
１２月　３日（木） 出席　３２名（欠席　３名）	行事についてお知らせ、感想発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表）
令和　３年　２月　１日（月） 出席　３２名（欠席　３名）	行事についてお知らせ、感想発表 頑張った人（１０月～１月）の発表 各委員会からの発表、報告 その他（朝の会の歌唱曲変更について） 利用者満足度調査についての報告
３月２６日（金） 出席　３０名（欠席　５名）	臨時利用者会 令和３年度利用者会役員選出について その他（令和２年度行事の感想、やってみたい行事についてなど利用者からの自由発表）

②　行事委員会　（山中司）

コロナウイルスの影響で「宿泊訓練」「ボウリング大会」など予定変更を余儀なくされたが、下記のとおりに会議を実施、行事の内容・委員会の役割について会議を行った。行事委員会の行事については、司会進行等の練習や各自の役割分担を決め積極的に行事遂行に携わった。

月	日	曜日	内　容	場　所	備　考
4	2	木	役員選出	ショップ食堂	利用者１０名

５	１２	火	バーベキュー行事 話し合い	ショップ食堂	利用者１０名
５	２７	水	バーベキュー行事 買い出し	レク買い出し	利用者　２名
６	２５	木	ミニ運動会 話し合い	ショップ食堂	利用者　８名
１０	１３	火	忘年会話し合い	ショップ食堂	利用者　８名
１１	１０	火	忘年会話し合い	ショップ食堂	利用者　８名
１１	２４	火	カラオケ行事 話し合い	ショップ食堂	利用者　６名
１２	１	火	忘年会景品 買い出し	買い出し	利用者　３名
１２	３	木	忘年会景品 買い出し	買い出し	利用者　３名
１２	９	水	忘年会景品袋詰め	作業室３	利用者　９名

※　令和２年度　行事委員会　計１０回　活動

③　広報委員会　（鎌田健司）

毎日の作業配置、毎月の行事、レクの写真、掲示物の張り替えを行った。

ポスター等の掲示物を玄関やロビーに掲示した。

活動は、利用者全体会の翌日の１２：３０～１２：５０に行った。

月	日	曜日	内　　容	参加人数
４	６	月	各役割を決定	利用者１２名
６	３	水	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者１１名
８	７	金	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者１１名
１０	８	木	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者１１名
１２	４	金	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者１０名
２	２	火	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者１０名

④　お茶委員会　（中嶋綾子）

利用者の毎日の施設でのお茶や作業用のお茶の準備、休憩時のテーブル拭きやおやつの準備など各担当を決めて行った。毎日の委員会の仕事をとおし、自主性・責任感を養った。

各担当の活動日は、毎日『朝・休憩・昼休み・帰宅時』とし、それぞれの担当が不在の時は、別の担当者が行った。また、毎月最終週の水曜日を会議日とし都合によってはその前後日に翌月のおやつの計画を立てている。

月	日	曜日	委員会	場　所	備　考
４	３０	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
５	２８	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　８名
６	２５	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１０名
７	２９	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　８名

８	２６	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　７名
９	２９	火	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１０名
１０	２９	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１０名
１１	２５	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
１２	２４	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
１	２９	金	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　７名
２	２５	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　８名
３	２６	金	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　６名

５　給食　（山口美香）

（１）業務内容

ア　毎日の業務

（ア）食材の買い出しを毎日行わずに、週１回程度でまとめ買いした。

（イ）平日の昼食の調理、食器・調理器具等の洗浄、清掃を行った。

（ウ）喫食者名簿、給食自主点検表、給食関係納品書、廃棄量調査、備蓄食品点検表、給食検食日誌、食品の加熱加工の記録、食品検収及び保管時の記録、給食配送記録簿を作成した。

イ　月間の業務

（ア）担当する職員の検便を実施した。

（イ）献立作成、発注書作成・発注業務、栄養出納表を毎月行った。

（ウ）見積書の作成は、購入業者に月１回の実施をすることで計画したが、新たに希望商品があった時にお願いした。

ウ　年間の業務

（ア）年２回の大掃除を行った。

（イ）嗜好調査、給食だよりについては実施回数不足だった。令和３年度は計画どおり年４回実施したい。

（ウ）年度初めに健康診断後、荷重平均栄養必要量を作成した。

（エ）年度末に、年間栄養摂取量表、食糧構成表を作成した。

（オ）市場調査を実施した。

エ　業務特記事項

（ア）事業計画には利用者の希望にあった献立に配慮するとしたが、希望だけでなくバランスのとれた献立に注意した。

（イ）厨房の衛生面については、新型コロナウイルス感染症防止の意味もあり、特に注意した。週１～２回程度だった布巾、調理台、冷蔵庫、床などの除菌は毎日するようにした。

（２）特別メニュー

ア　行事食

行事食は七夕、十五夜、芋煮、冬至、クリスマス、ひな祭りと６回実施した。

イ　郷土食

（ア）生まれ育った地域の料理は、「みそおでん」を実施した。

（イ）近県の郷土食は「芋煮」、「十和田バラ焼き」を実施した。

ウ　新メニュー

（ア）チョレギサラダ

（３）給食だよりの発行

ア　発行

３ヶ月に１回、年４回の発行予定だったが、２回しか発行できなかった。

イ　令和３年度への課題

新メニューの紹介・嗜好調査の結果報告・食中毒の予防方法については給食だよりで紹介はしたが、利用者向けではないのでもっとわかりやすく、簡単かつイラストを多く関心のもてるものにしないといけないと感じた。

（４）嗜好調査

ア　実施

３ヶ月に１回　年４回の実施予定だったが、２回しか実施できなかった。

喫食者による食事評価は、職員の検食を参考にした。

イ　令和３年度への課題

調査では、好きなもの・嫌いなものを書いてもらってはいるが、提供できるものとできないものがあり、好き嫌いだけで提供するかしないかの配慮はできないが、可能な範囲において喜んでもらえるメニューの工夫をしたい。また、アレルギーの場合は別であるが、今のところアレルギーの報告は受けてはいない。

利用者の嗜好調査のアンケート用紙を、今よりももっと簡単に記入できるよう工夫したい。

（５）まとめ・反省

全体的に早食い傾向なので、全利用者に対して落ち着いてゆっくりよく噛んで食べ、口の中の物を飲み込んでから、新たに口に運ぶように声がけをした。しかし、食器から口を離さず食べ物を口に入れ、１～２回噛んでは飲み込んでいる利用者が多く、それでは、いくら食べてもお腹が満足する前に食べ終えてしまう。声掛けをすると、返事はするが理解してもらうには毎日の見守り、声がけが必要だと感じた。

全体的に体重が増加傾向なので、主食を少し減らし、また薄い味付けを心がけ、腹八分目で慣れてもらう。少なくとも２０分程度時間をかけて、ゆっくり食べてもらいたい。

野菜を少しでも食べてもらえるようにドレッシングを選ばせて変化をつけたい。

令和３年度は、食事前の手洗いと、よく噛んで食事をすることに重点をおきたい。

6　防災

（1）ワークキャンパス大鰐　（金枝友和）

ア　実施状況

・利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

・「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

・消火・誘導・放送の分担を明確にして責務を果たした。

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１５	部分	14:00~14:20	地震	震度５	缶洗い場	２分４４秒
9/２５	総合	13:30~13:50	火災	食堂	缶洗い場	２分３６秒
3/１６	部分	14:00~14:20	火災	作業室１	缶洗い場	２分４７秒

イ　令和３年度への課題

・しいたけ作業時を想定としたショップと共同での訓練の実施。

・職員が手薄な際の非難誘導。

・自然災害時の緊急避難場所までの移動を想定した訓練の実施。

・非常時の防災グッズの整備。

（2）ワークショップ大鰐　（鎌田健司）

ア　実施状況

・利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

・「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１５	部分	15:00~15:20	地震	震度５、４０秒	駐輪場	２分５０秒
9/２５	総合	14:30~14:50	火災	２階　食堂	駐輪場	４分１０秒
3/１６	部分	12:50~13:10	火災	男子更衣室	駐輪場	２分２０秒

イ　令和３年度への課題

・しいたけ作業時を想定としたキャンパスと共同での訓練の実施。

・自然災害時の緊急避難場所までの移動を想定した訓練の実施。

（3）グループホームさくら（介護サービス包括型）　（金枝友和）

ア　実施状況

・利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

・「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

・職員に対し、普段一人勤務のため、第一優先は「人命」であることを再確認した。

・避難する際に行うべき機器の取り扱いについて、世話人に指導した。

【さくら】

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間

5/１５	部分	17:00~17:20	地震	震度４	玄関前	１分４３秒
9/２５	部分	17:30~17:45	火災	１階 居室	玄関前	１分２０秒

【あやめ】

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１５	部分	18:00~18:20	地震	震度４	玄関前	２分１６秒
9/２５	部分	18:00~18:20	火災	１階 玄関	玄関前	２分３８秒

【すみれ】

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１５	部分	17:00~17:20	地震	震度４	玄関前	１分０３秒
9/２５	部分	17:00~17:20	火災	台所	玄関前	１分１２秒

イ　令和３年度への課題

・宿直員の方の避難訓練が行われていないため、夜間での訓練の実施
・補聴器使用の利用者の対応、歩行に時間がかかる利用者の対応
・非常時に窓から脱出する際の方法等
・避難確保計画の実施
・自然災害時の緊急避難場所までの移動を想定した訓練の実施。
・非常時の防災グッズの整備。

（４）グループホームこすもす（外部サービス利用型）　（鎌田健司）

ア　実施状況

・利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。
・「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。
・職員に対し、普段一人勤務のため、第一優先は「人命」であることを再確認した。
・避難する際に行うべき機器の取り扱いについて、世話人に指導した。

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１５	部分	17:30~17:50	地震	震度４	玄関前	１分１０秒
9/２５	部分	18:10~18:30	火災	A棟 洗面所	玄関前	１分４５秒

イ　令和３年度への課題

・在室中の補聴器を付けている利用者が警鈴への気付きが弱い。
・自然災害時の緊急避難場所までの移動を想定した訓練の実施。

（５）避難確保計画に関する報告　（白石安英）

避難確保計画の作成は、「水防法等の一部を改正する法律」の公布に伴い、要配慮者利用施設の避難体制の強化を図るため「水防法」「土砂災害防止法」が改正され、避難確保計画の作成、市町村長への報告、避難訓練の実施が義務化されたことによるもので

ある。

義務化により求められたのは、水害・土砂災害に関する内容についてのみであったが、当法人においては、地震災害・火災等の災害時も含めた安全確保のため総合的に対処することを目的として策定し、令和２年１０月２９日付で大鰐町長宛提出した。

この目的達成のため、防災訓練計画（消防計画）を策定し必要な訓練を実施するほか、施設内外における火気及び電気系統の取り扱いについて常に細心の注意を払い利用者と職員の安全が確保できるよう注意喚起することとした。

令和２年度は、事業計画で準備された防災計画により防災訓練が実施されたが、令和３年度以降については、避難確保計画に基づいた防災訓練計画を策定・実施するとともに各施設・グループホームとも町指定の緊急避難所までの移動訓練を実施する計画である。その祭、行程を確認するとともに危機管理を徹底し、視覚障害、聴覚障害、身体障害のある利用者が、安全かつ迅速に避難できるよう必要に応じて計画に変更を加えるなど職員が連携して対応できるよう日常的に工夫に努めることとした。

７　広　報

（１）広報誌「阿闍羅」　（相馬良子、山川裕紀子）

ア　掲載内容

（ア）第１８号　令和２年７月３１日　３３５部発行

１面　障害福祉サービス事業所　青森県認証を受けて
理事長　秋元 広光
しいたけ事業の活性化について　施設長　佐藤 直幸

２面　令和元年度　福祉農園等支援事業報告
支援課長　笹田 和夫
粘土工作　支援員　竹内 友紀
お花見写生会　支援員　幸山 稚子

３面　新「しいたけ調整加工作業所」　施設長　佐藤 直幸

４面　令和元年度決算報告　事務課長　三上 拓雄
障害に関する相談窓口　支援課長　田中 大生

（イ）第１９号　令和２年１２月３１日　３３５部発行

１面　コロナに負けるな！ヤーヤドー！
～ねぷた絵を寄贈していただきました～
秋の叙勲並びに県社会福祉大会表彰
施設長　白石 安英

２面　福祉農園等支援事業について　支援課長　笹田 和夫

３面　令和２年度　津軽地区農福連携マルシェについて
支援員　鎌田 健司
令和２年度　教員免許取得者介護体験受け入れ
支援課長　田中 大生
新入職員紹介

４面　楽しかった！縁日を楽しもう会　　支援課長　笹田 和夫
　　秋のバスツアー　　支援員　　鎌田 健司
　　障害に関する相談窓口　　支援課長　田中 大生

イ　令和３年度への課題

今年度の記事は、青森県障害福祉サービス事業所の認証を受けたことや、国の支援事業や地域との関わりの内容があり、施設が色々な関わりによって運営していることをお知らせするものとなった。次年度の取組としては、利用者それぞれにスポットを当て、個性豊かで明るい内容の記事や施設の様子などを掲載したい。

（２）ホームページ　（山口美香、山内彩子）

ア　内容

（ア）更新

２０２０年７月に発行された「広報阿闍羅 第１８号」を載せた以外、ほぼ何も更新されなかった。

（イ）追加

なし

イ　令和３年度への課題

毎年度更新が必要とされる「理事長あいさつ」「事業計画及び報告」「利用状況」等において更新できなかったことは弁解の余地もない。また、令和２年度に実施された「短期入所事業（ショートステイ）」についても同様と言える。

タイムリーに情報を更新するためにも、以前より課題としてあげられている更新できる人材の育成が必要である。ワークキャンパス大鰐とワークショップ大鰐の職員に、研修の実施とその後の定期的な更新ができるよう指導したい。

（３）福祉サービス広報　（中平恵美）

ア　内容

令和２年度に、理念や基本方針、実施する福祉サービスの内容や事業所の特性等を紹介する資料を誰にでも分かりやすいように内容や写真・図・絵を使用し、福祉施設・事業所の紹介をした資料を作成した。作成した資料は、大鰐町役場、大鰐町総合福祉センター、大鰐町中央公民館に設置した。

イ　令和３年度への課題

内容の見直しをする。

（４）その他の広報活動　（中平恵美、幸山稚子）

ア　内容

①　大鰐町文化協会の総会等への出席

６月　４日（木）：文化協会　総会　　大鰐町中央公民館
８月　９日（日）：文化協会　理事会　　大鰐町中央公民館
１０月　６日（火）：文化協会　理事会　　大鰐町中央公民館

②　大鰐町民文化祭への参加

新型コロナウイルス対策のため中止。

③　地域のまつりなどへの参加

新型コロナウイルス対策のためほとんどの催事が開催されなかったため、参加していない。

イ　令和３年度への課題

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の流行のため、地域との交流をほぼすることができなかった。

令和３年度も町民文化祭美術展に出展するための作品作りを行うが、感染状況に左右されるため、開催されるかどうか不明。また、開催時には展示内容を工夫し、施設の活動について地域に知ってもらう機会につなげたい。

８　会議

（１）連絡調整会議　（田中大生）

実施月	開催日	会議内容	構成員
４月	４月　９日（木）	（ア）各施設間の情報共有 （イ）法人施設事業の方針の検討 （ウ）事業の進捗状況確認 （エ）行事等確認と日程調整 （オ）福祉サービス自己評価 （カ）福祉施策等通知の共有 （キ）規程や様式、マニュアル等の新規作成および改善 （ク）新規採用者育成計画並びに人材育成計画の検討・作成・検証 （ケ）その他協議調整が必要な事項	施設長 課　長 係　長 主　任 計９名
５月	５月１４日（木）		
６月	６月１１日（木）		
７月	７月　９日（木）		
８月	８月１２日（水）		
９月	９月１０日（木）		
１０月	１０月１５日（木）		
１１月	１１月１７日（火）		
１２月	１２月１０日（木）		
１月	１月１４日（木）		
２月	２月　９日（火）		
３月	３月１１日（木）		

（２）事業会議　（金枝友和、鎌田健司）

実施月	開催日	会議内容	構成員
４月	４月１６日（木）	（ア）次月の各業務予定報告 （イ）収支報告 （ウ）行事計画の立案検討 （エ）送迎に関すること （オ）ＧＨに関すること	理事長 法人職員 （非常勤を除く）
５月	５月２１日（木）		
６月	６月１８日（木）		
７月	７月１６日（木）		
８月	８月２０日（木）		

９月	９月１７日（木）	（カ）安全巡視の報告 （キ）連絡調整会議での調整事項について報告および提案 （ク）新規採用者育成計画並びに人材育成計画公表・説明 （ケ）共同受注窓口の納品配達、新規開拓、出店等に関する予定・報告・検討 （コ）その他	計１９名
１０月	１０月２２日（木）		
１１月	１１月１９日（木）		
１２月	１２月１７日（木）		
１月	１月２１日（木）		
２月	２月２５日（木）		
３月	３月１８日（火）		

（３）給食会議　（山口美香）

ア　内　容

（ア）給食業務、内容の協議については、事業会議で発表し、皆さんからご意見をいただき実施するように検討した。

（イ）・（ウ）嗜好調査の検討、調理・味付けの工夫については、検食日誌を元に調理員と一緒に話し合い実施した。

（エ）その他、利用者の食に関係することは、事業会議、ケース会議等で話し合い検討した。

イ　実施日と記録

※　事業会議に同じ。

ウ　実施場所と時間

※　事業会議に同じ。

（４）ケース会議

ア　ワークキャンパス大鰐　（中平恵美）

開催日	構成員	会議内容
４月１５日（水）	全職員	めだかの会報告、研修報告、支援計画　他
５月１１日（月）		ケースカンファレンス、春の健康診断　他
６月　３日（水）		めだかの会報告、ケースカンファレンス　他
７月　１日（水）		ケースカンファレンス、ヒヤリハット　他
８月　５日（水）		めだかの会報告、ケースカンファレンス、現場体験実習について、ケース記録　他
９月　２日（水）		ケースカンファレンス、研修報告　他
１０月　７日（水）		めだかの会報告、現場体験実習について、研修報告、モニタリング、個別能力評価、支援計画　他
１１月　４日（水）		研修報告、三者面談報告、支援計画　他
１２月　２日（水）		めだかの会報告、ケースカンファレンス、利用者行事について　他
１月　６日（水）		ケースカンファレンス、研修報告、事業計画作成について　他
２月　３日（水）		ケースカンファレンス、工賃評価について、書類整理について　他
３月　３日（水）		めだかの会報告、ケースカンファレンス研修報告、三者面談について　他
３月２４日（水）		工賃評価について、モニタリングについて　他

イ　ワークショップ大鰐　（中嶋綾子）

会議名	開催日	会議内容	構成員
第　１回 第　２回 第　３回 第　４回 第　５回 第　６回 第　７回 第　８回 第　９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回	４月２３日（木） ５月１２日（火） ６月　４日（木） ７月　２日（木） ７月２８日（火） ９月　３日（木） １０月　８日（木） １１月　５日（木） １２月　３日（木） １月１５日（金） ２月　４日（木） ３月　４日（木） ３月３０日（火）	（ア）職員の資質向上に関すること ・研修報告　・職員研修 ・ヒヤリハット事例検討 （イ）利用者の個別支援に関すること ・支援計画書、モニタリング記録表 ・ケースカンファレンス ・家庭訪問記録、通院報告 ・作業能力評価　・三者面談内容報告 （ウ）行事・作業に関すること ・行事計画 ・作業予定	ワークショップ大鰐職員（利用者情報共有は非常勤含む） 計１２名（内非常勤３名）

（５）グループホーム関係者会議　（田中大生）

実施回	開催日	会議内容	構成員
第１回	５月２１日（木）	（ア）業務内容全般の確認 （イ）利用者支援方法伝達と支援後確認 （ウ）利用状況確認 （エ）法人の方針や必要な通知等の　周知 （オ）規程、様式、マニュアル等の周知 （カ）食事等の管理と栄養等指導 （キ）世話人、宿直員、生活支援員、サビ管、管理者、栄養士等の顔合わせ （ク）ミニ研修並びにグループワーク （ケ）その他	施設長 サビ管 課長 主任 栄養士 世話人 宿直員 計２３名
第２回	７月１６日（木）		
第３回	９月１７日（木）		
第４回	１１月１９日（木）		
第５回	１月２１日（木）		
第６回	３月１８日（木）		

９　人材育成計画（研修計画）

（１）評価・面談　（田中大生）

ア　評価

職員育成・評価基準の「キャリアパス要件」に基づき、「職員育成・評価基準シート」を使用して行った。（再雇用および非常勤を除く）

イ　面談

（ア）目標設定の助言

実 施 日　　令和２年５月

被面談者　　ワークキャンパス大鰐　　８名

　　ワークショップ大鰐　　７名

面 談 者　　施設長、課長

（イ）目標達成の評価

実 施 日　　令和３年４月

被面談者　　ワークキャンパス大鰐　　９名

　　ワークショップ大鰐　　８名

面 談 者　　理事長、施設長、課長

（２）求められる能力　（田中大生）

各職域とキャリア階層ごとに「人材育成年間スケジュール」を下記のとおり作成、周知した。ただし、対象者が０名については作成していない。

・作成　　令和２年　４月　９日　連絡調整会議

・周知　　令和２年　４月１６日　事業会議

作成内容	対象者	期間
一般職　初級	０名	令和２年４月１日～令和３年３月３１日
一般職　中級	１０名	
一般職　上級	２名	
指導職　乙	１名	
指導職　甲	１名	
経理・事務　初級	０名	
経理・事務　中級	１名	
経理・事務　上級	１名	
経理・事務　乙	１名	
経理・事務　甲	０名	
調理員　乙	１名	
調理員　甲	０名	

（３）新規採用者研修　（佐藤直幸）

ア　評価

今年度は有期職員及び非常勤職員各１名、合計２名の採用者がおり、研修日数を有期職員・非常勤職員ともに３日間を予定、在職職員にも案内を配布し参加者を募った。新規採用者の個人的な事情もあり、予定されていた日時に受講できなかった

場面もあったが再度設定を見直し、当初予定した研修内容を新規採用者２名に実施した。

イ　研修実施日時及び実施内容

（ア）有期職員

実施年月日	内容	担当職員
令和２年１１月２４日	事務連絡 法人理念の説明 前年度事業計画説明 今年度事業計画説明 倫理綱領・職員行動規範の説明 全施設見学 職員育成・評価基準の説明（キャリアパス）	佐藤直幸
令和２年１１月２５日	障害　基本の「き」 バイスティックの７原則 リスクマネジメント （ヒヤリハットの法則） 障害者虐待防止について	佐藤直幸
令和２年１１月２７日	ビジネスマナー	佐藤直幸

（イ）非常勤職員

実施年月日	内容	担当職員
令和２年１１月１９日	法人理念の説明 前年度の事業計画の説明 今年度の事業計画の説明 倫理綱領・職員行動規範の説明	佐藤直幸
令和２年１１月２５日	障害　基本の「き」 バイスティックの７原則 リスクマネジメント （ヒヤリハットの法則） 障害者虐待防止について	佐藤直幸
令和２年１２月　１日	ビジネスマナー	佐藤直幸

（４）研修参加（実施）等状況　（笹田和夫）

【県社協・保健大学　主催研修】

実施日			研修名	場所	参加者
6月11日			社会福祉施設職員経理研修	青森県立保健大学	三上拓雄、田中大生
7月1日	～	7月2日	キャリアパス対応生涯研修　初任者コース	県民福祉プラザ	山川裕紀子
7月8日	～	7月9日	キャリアパス対応生涯研修　初任者コース	県民福祉プラザ	山内彩子
8月5日			中南地域相談支援包括化推進会議・自立相談支援ネットワーク会議	藤崎町文化センター	田中大生
8月21日			栄養・食育マネジメントセミナーⅠ	青森県立保健大学	山口美香　三浦節美

11月13日	社会福祉援助技術研修	青森県立保健大学	鎌田健司

【知的障害者福祉協会　主催研修】

実施日	研修名	場所	参加者
11月27日	新型コロナウイルス対応BCP研修	オンライン	田中大生

【青森県・市町村　主催】

実施日	研修名	場所	参加者
2月7日	コロナ対応における職員の心理的反応および支援方法	オンライン（厚労省）	田中大生

【阿闍羅会　主催研修】

実施日	研修名	場所	参加者
4月30日	職員スキルアップ研修　第1回	ワークショップ大鰐	中止
5月28日	第1回　内部研修	ワークショップ大鰐	17名
6月25日	第2回　内部研修	ワークショップ大鰐	20名
7月30日	第3回　内部研修	ワークショップ大鰐	11名
8月1日	自動車安全運転研修	ワークショップ大鰐	30名
8月27日	第4回　内部研修	ワークショップ大鰐	11名
9月24日	第5回　内部研修	ワークショップ大鰐	16名
10月29日	第6回　内部研修	ワークショップ大鰐	18名
11月25日	新規採用者研修	ワークキャンパス大鰐	2名
11月26日	職員スキルアップ研修　第2回	鰐come	中止
12月1日	新規採用者研修	ワークキャンパス大鰐	3名
12月24日	第7回　内部研修	ワークショップ大鰐	11名
1月9日	虐待防止研修	ワークショップ大鰐	21名
2月18日	職員スキルアップ研修　第3回	ワークショップ大鰐	14名
3月25日	第8回　内部研修	ワークショップ大鰐	18名

【その他研修】

実施日	研修名	場所	参加者
6月23日	安全運転管理者講習	スポカルイン黒石	笹田和夫
12月12日	医療的ケア教員講習会	県民福祉プラザ	中平恵美、中畑幸　※今回はコロナのため欠席　4月以降受講する。

【総会・会議　等】

実施日	会議名	場所	出席者
－	鰐come産直の会　総会	~~鰐come~~	書面議決
4月16日	大鰐温泉観光協会　総会	~~大鰐町中央公民館~~	中止、書面議決
4月17日	中小企業家同友会（津軽支部）　総会	－	中止、書面議決
4月19日	弘前市手をつなぐ育成会　総会	~~弘前市社会福祉センター~~	中止、書面議決
4月27日	青森県知的障害者福祉協会　総会	~~県民福祉プラザ~~	中止、書面議決
－	大鰐町農業再生協議会　幹事会	~~大鰐町役場~~	書面議決
－	大鰐町農業再生協議会　通常総会	~~大鰐町役場~~	書面議決
6月4日	大鰐町文化協会　総会	大鰐町中央公民館	中平恵美、幸山稚子、田中大生
6月22日	大鰐町社会福祉協議会　評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英
6月29日	まるごと大鰐商人の会　会議	日景食堂	田中大生
7月15日	鰐come業者協力会「鰐の会」 役員会	鰐come	田中大生
7月29日	鰐come業者協力会「鰐の会」 監査会	鰐come	田中大生
8月5日	まるごと大鰐商人の会　会議	日景食堂	田中大生
9月8日	大鰐町農業再生協議会　幹事会	~~大鰐町役場~~	書面議決
9月14日	大鰐町農業再生協議会　臨時総会	~~大鰐町役場~~	書面議決

9月18日		黒石地区安管協・事業主会大鰐支部合同役員会	山忠会館	笹田和夫
9月29日		「秋の全国交通安全運動」に伴う街頭指導教室	マックスバリュ大鰐	笹田和夫
10月6日		大鰐町文化協会　理事会	大鰐町中央公民館	中平恵美、幸山稚子
10月13日		まるごと大鰐商人の会　総会	鰐come	白石安英、田中大生
10月30日		大鰐町地域自立支援協議会	大鰐町役場	田中大生
11月6日		大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
11月10日		青森県社会福祉大会	リンクステーションホール青森	理事長参加予定　→　式典中止のため不参加
12月13日		大鰐6町内B総会	大鰐町中央公民館	笹田和夫
1月28日		大鰐町地域自立支援協議会	大鰐町役場	田中大生
3月1日		大鰐町地域自立支援協議会	大鰐町役場	田中大生
3月15日		まるごと大鰐商人の会　会議	日景食堂	田中大生
3月23日		大鰐町社会福祉協議会　評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英
3月24日		鰐come産直の会　役員会	鰐come	田中大生

１０　苦情解決

（１）ワークキャンパス大鰐　（中平恵美）

ア　施設担当職員

苦情解決責任者　　施設長　　佐藤直幸

苦情受付担当者　　支援係長　中平恵美

イ　第三者委員

ひろさき地域福祉ネットワーク・オンブズマン委員会（ひろネット）

訪問委員　寺口美代子、清藤紀子（２名）

ウ　訪問記録

（ア）訪問日、訪問委員、面談状況と問題点

訪問日	委員名	状況と問題点
４／	寺口、清藤	新型コロナウルス対策のため休止
５／	寺口、清藤	新型コロナウルス対策のため休止
６／２５	寺口、清藤	８名の利用者と面談　特に問題なし
７／２９	寺口、清藤	５名の利用者と面談　特に問題なし
８／２６	寺口、清藤	５名の利用者と面談　特に問題なし
９／２９	寺口、清藤	６名の利用者と面談　特に問題なし
１０／	寺口、清藤	新型コロナウルス対策のため休止
１１／	寺口、清藤	新型コロナウルス対策のため休止
１２／	寺口、清藤	新型コロナウルス対策のため休止
１／２８	寺口、清藤	６名の利用者と面談　特に問題なし
２／２５	寺口、清藤	５名の利用者と面談　特に問題なし
３／２４	寺口、清藤	６名の利用者と面談　特に問題なし

（イ）訪問回合計、面談者延べ人数

訪問回数：合計７回　　面談者数：延べ４１名

（ウ）実施状況と令和３年度への課題

コロナの状況を見ながらオンブズマンの面談を進め、面談ができる状況次第で利用者の面談人数を多目にして順次面談を行うこととする。利用者からの苦情があった場合は適切な対応で、利用者個人の権利を擁護すると共に、利用者が福祉サービスを適切に利用できるように支援する。

（２）ワークショップ大鰐　（中嶋綾子）

ア　施設担当職員

苦情解決責任者　　施設長 白石安英

苦情受付担当者　　主　任 中嶋綾子

イ　第三者委員

ひろさき地域福祉ネットワーク・オンブズマン委員会（ひろネット）

訪問委員　工藤昌子、寺口美代子（２名）

ウ　訪問記録

（ア）訪問日、訪問委員、面談状況と問題点

訪問日（施設担当者）	訪問委員名	面談状況と問題点
６月２３日（白石安英）	工藤、寺口	７名と面談、特に問題なし
７月２２日（白石安英）	工藤、寺口	７名と面談、特に問題なし
８月２５日（白石安英）	工藤、寺口	６名と面談、特に問題なし
９月２５日（白石安英）	工藤、寺口	７名と面談、特に問題なし
１月２７日（白石安英）	工藤、寺口	６名と面談、特に問題なし
２月２２日（幸山稚子）	工藤、寺口	８名と面談、特に問題なし
３月２３日（白石安英）	工藤、寺口	８名と面談、特に問題なし

（イ）訪問回合計、面談者延べ人数

訪問回数：合計７回　　面談者数：延べ４９名

（ウ）実施状況と令和３年度への課題

施設訪問委員は、コロナ感染予防を考慮しつつ訪問日調整の連絡を密にし不定期ではあるが利用者及び施設担当者と面談し、日常的な状況把握と意見聴取を行った。苦情等の申し出はなかった。

次年度の課題として今年度同様コロナ収束の兆しが見えなければその時の状況で訪問回数、１回の面談人数の調整が必要と思われる。

（３）利用者満足度調査　（植田善久）

ア　実施概要

（ア）ワークキャンパス大鰐

配布日　　令和２年１１月２０日（金）

集計日　　令和２年１２月２１日（月）

配布数　　３０名

回収集　　２９名

回収率　　９６．６％

（イ）ワークショップ大鰐

配布日　　令和２年１１月２０日（金）

集計日　　令和２年１２月２１日（月）

配布数　　３５名

回収数　　３１名

回収率　　８８．７６％

イ　総括

令和２年度初めての試みで、実施時期を７月としていたが、準備不足等もあり実施時期が１１月となり遅れてしまった。令和３年度は計画どおり実施したい。

工夫をした点として対象が利用者であり、できるだけ分かり易い言葉づかいや、表現の仕方を検討し実施。結果として、日常でなかなか知ることのできないことや、日頃の思いを知ることができるいい機会となった。アンケート結果をもとに、より良いサービスを提供できるように日頃の支援等に活かしていきたい。今後とも質問の内容等を検討しながら実施したい。

１１　地域生活支援　（笹田和夫、田中大生）

（１）グループホームさくら（介護サービス包括型）

居宅数　　３棟

居宅名　　「さくら」「すみれ」「あやめ」

ア　住居

定員１８名　　現員１５名（令和３年３月３１日現在）

※　生活介護１名、就労継続支援Ｂ型１４名

イ　食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫した。

ウ　地域との関わり

令和２年度町内会に正式参加し、会費を払って総会に参加した。（あやめ）

エ　令和３年度への課題

障害や生活能力が多様であり、個別の対応が必要である。利用者同士で助け合いながら生活できるよう支援をしたい。また、避難確保計画に沿って、避難訓練等を実施したい。

（２）グループホームこすもす（外部サービス利用型）

居宅数　　１棟

居宅名　　「こすもす」

ア　住居

定員８名　　現員８名（令和３年３月３１日現在）

※　就労継続支援Ｂ型７名、一般就労１名

イ　食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫した。

ウ　地域との関わり

コロナの感染状況を鑑み、関わりを模索していきたい。

エ　令和３年度への課題

比較的協力的に生活しているが、個別に生活ルールを守って生活するよう支援をしていく。また、避難確保計画に沿って、避難訓練等を実施したい。

１２　共同受注窓口

（１）「津軽地区障害者就労継続支援事業所共同受注窓口ふらわーずぶるーむ」（山川裕紀子）

ア　実施概要

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で催事そのものが中止になることが多く、催事への参加回数（令和元年度　２４回）、売上（令和元年度　６８２，７６０円）ともに令和元年度を大きく下回っている。例年さくら野百貨店弘前店で開催している「農福連携マルシェ」は、参加施設の減少や感染対策の問題等で開催も危ぶまれたが参加施設の協力を得ながら感染対策を徹底し開催をしている。

また、初参加である「軽トラ市」の参加があり阿闍羅会としての活動も周知することができた。

ワークキャンパス大鰐、ワークショップ大鰐の両施設の職員で催事に協力することで、法人としての体制が確立している。

イ　催事売上

月	売上	月	売上
４月	６，１５０円	１０月	１１３，５２５円
５月	８，２２５円	１１月	２，８７５円
６月	２，９５０円	１２月	２，７５０円
７月	２，３００円	１月	２，９５０円
８月	１４，２００円	２月	２，５５０円
９月	９，２００円	３月	４，８２５円
小計	４３，０２５円	小計	１２９，４７５円
合計	１７２，５００円		

ウ　参加催事

月日	催事名	出店担当
８月　８日（土）	軽トラ市	田中、笹田
９月１２日（土）	軽トラ市	鎌田
１０月　３日（土）	農福連携マルシェ	田中、鎌田
～　４日（日）	農福連携マルシェ	竹内、山川
１０月１０日（土）	軽トラ市	

※　計４回　延べ４日間

（２）中南障害者工賃アップ協議会　（白石安英）

中南障害者工賃アップ協議会は、新型コロナ感染対策のため第１回の会議を延期した後の実質的な活動は実施できなかった。次年度については、感染状況を見ながら

計画することとする。

１３　虐待防止委員会　（白石安英）

（１）実施日時　　令和３年１月２７日（水）１５：３０～１６：１５

（２）参 加 者

役職名	氏名	所　属　等
委 員 長	秋元　広光	理事長
副委員長	佐藤　眞一	業務執行状況監査役
委　　員	浅利　金利	（椎の実会会長）
	寺口美代子	第三者委員訪問委員（オンブズマン）
	工藤　昌子	第三者委員訪問委員（オンブズマン）
	佐藤　直幸	ワークキャンパス大鰐施設長
	白石　安英	ワークショップ大鰐施設長

※　工藤美生（虹の会会長）委員、清藤紀子（オンブズマン）委員は、都合により欠席

（３）審議内容

ア　「虐待防止委員会規程」及び「虐待防止対応マニュアル」について

「虐待防止委員会規程」については昨年度改定したものを改めて配布。規程内容の変更では無く、語句の追加修正であることを説明。

「虐待防止対応マニュアル」についても内容の変更は無く、体裁を整えたことと早期発見チェックリスト及び虐待防止チェックリストを現状のものに合わせ別冊にした。このことによりマニュアルの変更をすることなくチェックリストを都度現状に合わせ改正することができるようにした。また、最終ページの連絡先「警察」機関名称の変更に合わせて変更した。

イ　今年度の虐待防止について(報告)

（ア）研修状況について

①　県社協・保健大学　主催研修

「令和２年度障害者虐待防止・権利擁護研修」（虐待防止マネージャー・管理者）

※　ウエブ研修に変更したため不参加。

②　阿闍羅会　主催研修（法人内研修）全職員対象

「虐待防止研修」（グループワークによる事例検討）

※　参加率が６割弱。資料を渡すだけでなく、別日に実施する。

（イ）「早期発見チェックリスト」について

（ウ）「職員セルフチェックリスト」について

「早期発見チェックリスト」は年３回実施。回収せず、虐待防止への意識を高めることと虐待事例の早期発見を促すことを目的とし、問題があると実施職員が判

断した場合は、それぞれの施設長に直接報告する。

「職員セルフチェックリスト」は年１回実施。実施した職員自身の自己診断により虐待の可能性がないかを確認する。記名提出方法により追跡や解決に繋げる仕組みとしている。

ウ　チェックリスト及びヒヤリ・ハットについて

令和２年度は、事故やケガはあるものの虐待に関係したものはなかった。また、上記説明のチェックリストも問題はなかった。このことから、当委員会の実施はしていない。

（各委員から）

浅利金利委員；日々の支援の中で、職員のストレスは溜まっていると思う。ストレスを軽減するための対応として職員のケアを検討してほしい。

白石安英委員；職員への対応として、全体へ伝えることは全体で共有し、個別に対応した方が良い点については、年２回の職員面談の際に対応する。

工藤昌子委員；オンブズマンが来訪した際に、利用者だけではなく職員の面談も実施している。これを更に活用してほしい。

佐藤眞一委員；職員セルフチェックリストの記名は必要。そこから事業所としての対応につなげることができる。

エ　その他

職員の否定的発言と話し方がきつく感じるところが気になるところであり、今後の支援の対応について気をつけるようにしたい。

また、「利用者の個人的なところをどこまで許容したらいいのか分からない。」といった意見もあった。全てを十分に対応するのは難しいのが実状。現在、しいたけ作業を中心として進めており、ワークキャンパス大鰐・ワークショップ大鰐の作業環境を利用者個々の障害特性に合わせて確保することは難しく今後の課題である。

（４）年間活動

ア　令和３年度の予定

令和３年度開催時期　今年度と同時期（１月）で委員から了承を得た。

イ　年間活動

（ア）　早期発見チェックリストの全職員への配付

配付月：　令和３年７月、１０月、令和４年１月　　計３回

（イ）　虐待防止チェックリストの全職員への実施

回収月：　令和３年４月

１４　安全巡視　（佐藤直幸）

（１）実施日及び実施担当者

実施年月日	担当者
令和２年　６月２４日	笹田和夫・田中大生
令和２年　９月１５日	植田善久・鎌田健司

令和２年１２月２４日	山中司・相馬良子
令和３年　３月１１日	金枝友和・山内彩子

（２）実施内容

３ヶ月に１回、キャンパス・ショップより各１名ずつ選出し実施。

法人内事業所全部を訪問、注意箇所を点検し事業会議で報告し検討した。

（３）令和３年度への課題

各事業所で環境維持及び建物の老朽化による破損箇所やリフォームが必要な部分が多々みられた。利用者の生活に直接関わる部分を最優先事項とし、来年度の予算と照らし合わせながら修繕を実施。その他、日頃の各事業所の支援の様子で気になる点等も含めた安全巡視を行っていきたい。

１５　地域交流

（１）地域との交流　（笹田和夫）

ア　大鰐町民生児童委員協議会

イ　大鰐町社会福祉協議会

評議員会への出席・ふれあい広場への参加（令和２年度は、折り紙を使った巨大壁画制作への協力）、集めたプルタブの寄贈をした。

ウ　町内加盟地域団体

おおわに文化祭美術展への参加協力（準備をしたが中止）、まるごと大鰐商人の会（会議出席）、鰐 come 産直の会および鰐 come 業者協力会への商品納入と協力（会議出席）、中小企業家同友会津軽支部例会等への出席をした。

エ　大鰐町

大鰐町地域自立支援協議会、大鰐町子ども・子育て会議出席、大鰐町農業再生協議会へ委員として出席した。

（２）学生やボランティア等の受け入れ　（笹田和夫、田中大生）

ア　大鰐中学校福祉体験学習（１年生徒）

今年度はなし。

イ　特別支援学校からの現場実習生

以下の実習生を受け入れた。

（ア）ワークキャンパス大鰐

弘前大学附属特別支援学校高等部　１年　男子　２週間

ウ　教員免許取得者の介護等体験

令和２年度は、弘前大学教育学部から１名（９月に５日間）、東北女子大学から１名（８月に５日間）実施した。ワークショップ大鰐で担当。リサイクルやしいた

けの作業の他、昼食時間などにおいて、できるだけ利用者とふれあう機会を多く設けた。

（３）情報の収集と公開　（田中大生）

ア　利用者・保護者・地位住民に対しＨＰ上で情報を公開しているが、令和２年度は最新の情報に更新できずにいた。令和３年度はタイムリーに情報を公開できるようにしたい。

イ　福祉サービス広報の一つとして、誰にでもわかりやすい内容のパンフレットを作成し、大鰐町役場障害福祉課、大鰐町総合福祉センター、大鰐町中央公民館に設置しているが、その後の確認をしていなかった。令和３年度は、設置状況の確認と、パンフレットの見直しをしたい。

ウ　社会福祉法人は地域に必要とされる組織でなくてはならないということを再認識し、令和３年度はさらに運営の透明性を高めるため、地域に対し法人の理念やビジョンを明示・説明し、法人の存在意義や役割を明確にするようにしたい。

（４）福祉避難所　（佐藤直幸）

令和２年度の利用はなかった。いつ災害等が起こるのかわからないため、福祉避難所としての機能を維持できるように努めていきたい。

（５）障害に関する相談窓口　（田中大生）

令和２年度の相談実績はありませんでした。広報と連携し地域への認知を高めることが必要。